

演習科目(1年次必修科目)

演習科目は研究基礎演習およびケースメソッド演習で構成されます。総合的・実証的・実践的な研究・教育を目指して本学独自のポータルサイト【nfu.jp】上での学習と4回のスクーリング授業とを併用して行われます。

- ▶研究基礎演習：研究の基礎について学ぶ。(1年次4月～7月)
- ▶ケースメソッド演習：ケースメソッド演習を導入し、集団運営に必要な相互理解の視点や多角的な問題分析能力等を養う。(1年次9月～12月)

単位認定	●インターネット上での共同討議への参加	●レポート提出(計2回)	●スクーリング授業への参加(計4回)
------	---------------------	--------------	--------------------

修士論文指導教員紹介

※2025年度時点の情報を記載しています。指導教員は変更になる場合がございます。

青木 聖久 教授 キーワード 精神障害者、精神保健福祉士、所得保障、障害年金、無年金障害者問題、普及啓発	伊藤 文人 教授 キーワード 批判的ソーシャルワーク、ソーシャルワークの価値と倫理、社会福祉と贈与関係の歴史的研究	伊藤 美智予 准教授 キーワード ケアの質評価、認知症ケア、マネジメント、プログラム開発と評価、災害時支援、家族支援	遠藤 秀紀 教授 キーワード 介護市場、計量分析、青年期から高齢期の金融に関する意思決定
大谷 京子 教授 キーワード ソーシャルワーク方法論、精神保健福祉、スーパービジョン、専門職アイデンティティ	川島 ゆり子 教授 キーワード 地域福祉、ソーシャルワーク、コミュニティソーシャルワーク、ボランティア活動	木全 和巳 教授 キーワード ディスアビリティ、セクシュアリティ、ソーシャルワーク、権利保障、発達保障	児玉 善郎 教授 キーワード 福祉住環境、高齢者住宅、ユニバーサルデザイン、災害時要援護者
小松 理佐子 教授 キーワード 社会福祉の運営管理、地域福祉論、民間非営利セクター、地域、生活支援、社会福祉供給システム	斉藤 雅茂 教授 キーワード 高齢者、貧困・剥奪、社会的孤立・孤立死、セルフ・ネグレクト、社会的排除、介護サービス利用格差	杉本 浩章 教授 キーワード 終末期ケア、医療・福祉マネジメント、ソーシャルワーカー養成教育	中村 強士 准教授 キーワード 保育問題、保育制度・政策、子どもの貧困、子育て困難、子育て・家族支援
野尻 紀恵 教授 キーワード 子どもの権利、子どもの貧困、子どもの居場所、スクールソーシャルワーク、教育福祉、福祉教育、地域福祉	保正 友子 教授 キーワード ソーシャルワーカーのキャリア形成・実践能力・成長過程、ソーシャルワーク教育	堀場 純矢 教授 キーワード 児童養護施設、労働・生活問題、貧困問題、階層性	増井 香名子 准教授 キーワード 暴力、虐待、DV、子ども、支援方法、トラウマ、心理教育、インタビュー、修正版グラウンデッド・セオリー、アプローチ(M-GTA)
山口 みほ 准教授 キーワード ソーシャルワーク、医療福祉、薬物依存症、精神保健福祉、MSW養成教育・現任者研修、スーパービジョン	山田 壮志郎 教授 キーワード 公的扶助論、貧困問題の実態、社会保障制度のあり方、ホームレス問題	湯原 悦子 教授 キーワード 司法福祉、介護殺人の防止、介護者支援、虐待、非行、更生	横山 由香里 准教授 キーワード QOL、人とのつながりと健康、ストレス対処力、災害後の支援
鷺野 明美 教授 キーワード 刑事司法におけるソーシャルワーク、司法と福祉の連携	綿 祐二 教授 キーワード 発達障害の療育研究、障害者への支援、利用者本位の介護実践、福祉現場の倫理、福祉施設の人材育成、理論と実践の融合	渡辺 顕一郎 教授 キーワード 子ども家庭福祉、地域子育て支援、障害児支援	

修了生の声



梅木 博志さん（社会福祉協議会：職員、本学大学院研究生）
「言語化で“モヤ”が晴れる快感を」
実践の中での感覚的な理解を言語化したかったのが入学の動機です。論文執筆は楽しいものでした。指導教員の先生のご指導で、感覚的な理解が“モヤ”が晴れるように言語化されていきました。言語化するノウハウは実践にも役立っています。
仕事と母親の在宅介護を並行しての院生生活でしたが、通信課程のおかげで乗り越えることができました。
ぜひみなさんも“モヤ”が晴れる感覚を体感してください。今後も研究生として、さらに“モヤ”を晴らしていきたいと思います。



権守 麻衣子さん（医療機関：医療ソーシャルワーカー、本学大学院研究生）
いつか人生を振り返った時に、「転機はいつですか?」と聞かれたら、迷いなく「大学院に行ったことです。」と答えます。仕事のことも障害を持った息子のことも、力不足や焦燥感を抱え、何かを変えたくて踏み出した2年間は、私にとって宝物のような刺激的な出逢いと、人生で一番勉強した日々でした。
価値観、年代、職業、全て違うなかで集ってきた人達の縁が紡がれて、卒院してからも仕事でも人生でもこの経験が大きな糧となっています。もし今、迷われている方がいるのなら、その一步、自分を信じて踏み出して下さい。きっと「先生」と「仲間」と「今よりもいい明日」が待っているはずです。